

④

あお とり やま  
青鳥山

所在地：幡豆郡吉良町大字小山田

—ペグマタイトの露頭が見られる特異な地質—

昭和51年10月15日指定

面積 (ha)

特別地区(全域)

1.62

青鳥山自然環境保全地域は、三河湾に面した吉良町にある標高80m程の青鳥山にあります。

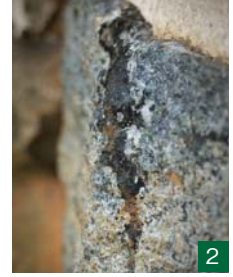
この地域の南側には中央構造線が走っています。中央構造線の北側には領家変成帯が、南側には三波川変成帯が分布しており、青鳥山の地質は領家変成帯に含まれます。

この地域は、主として青黒く割れにくいはんれい岩類からなっていますが、北部には領家変成岩類もみられ、その間に領家閃緑岩類が貫入するという特異な地質構造を持っています。

さらに注目されるのは、はんれい岩を貫くペグマタイトと呼ばれる巨晶花崗岩もみられ、その中には電気石、ザクロ石、白雲母などの結晶がみられることです。

白雲母はきらきらと輝くことからキララと呼ばれ、古くはこの地で採取されたこともあるようで、吉良という地名の由来ともいわれています。

はんれい岩は、青鳥山の麓にある八幡神社の石垣に使われており、容易に観察することができます。



- 1：全景  
2：ハンレイ岩を貫くペグマタイト  
3：石積み  
4：八幡神社の石垣  
5：青鳥山からの景色

⑤

きち じょう さん  
吉祥山

所在地：豊橋市石巻萩平野町字吉祥山  
新城市大字一畷田字吉祥山

—中央構造線の三波川変成帯の露頭—

昭和51年10月15日指定

面積 (ha)

普通地区(全域)

20.15

吉祥山は、豊川下流の左岸、豊橋市と新城市の境にある標高382mの独立した山です。

吉祥山の北側には我が国最大の断層帯である中央構造線が走っています。この中央構造線に沿って北西側に領家変成帯が、南東側に三波川変成帯が分布しており、吉祥山はこの三波川変成帯を特徴づける特異な地質がみられる地域になっています。

三波川変成帯は、熱よりも圧力の影響を強く受けてできた結晶片岩からなっており、吉祥山は山麓部を除いて、その一種である角閃石片岩で構成されています。

山頂部や北尾根にある祠付近で灰色を帯びた濃緑色の角閃石片岩の露頭を観察することができます。また露頭では鉱物が層状に重なり合っている片理構造をみることができます。

山頂下の北尾根にある祠付近には、胸高直径1mを超えるスダジイ等の巨木林が小規模ながらみられ、この地域ではシイ群落がこのような標高でも成立すること示しています。



- 1：スダジイの大木  
2：祠と角閃石片岩  
3：山頂付近の角閃石片岩  
4：吉祥山全景